

大洲市立博物館報

第17号
 〒795-0054
 愛媛県大洲市中村618-1
 大洲市立博物館
 TEL&FAX (0893)24-4107

身近で魅力的な施設「博物館」

館長 前野隆裕

七月下旬、仏画を専門とする学芸員が東京から来館されました。目的は当館が保管している『絹本着色釈迦三尊像及び十六羅漢図』の掛け軸を見るためです。

学生時代に写真集で見たこの掛け軸に惹かれ、実物を見たいという気持ちで芽生えてから十数年後に夢が実現したと話されました。写真では不鮮明だった細かい描写から多くの発見があったと熱く話される姿が印象的でした。博物館には、次の三つの機能が求められます。

- 一 資料及び展示を調査し、研究する機能
- 二 資料の展示をとおして、教育や楽しみを提供し、学習を助ける機能
- 三 資料を収集し、保管する機能

冒頭に紹介したのは、一番目の機能の一例です。専門に研究された方のご指摘で、資料（掛け軸）の新たな価値を知ることができました。調査や研究などで交流する事はとても重要です。

博物館では、年間通して資料を展示する「常設展示」やテーマや期間を定めて展示する「特設展示」のほかに、「特別展示」があります。主に五階の特別展示室で市民の皆様の作品などを紹介しています。特別展示室の利用を希望される方は、博物館にお問い合わせください。



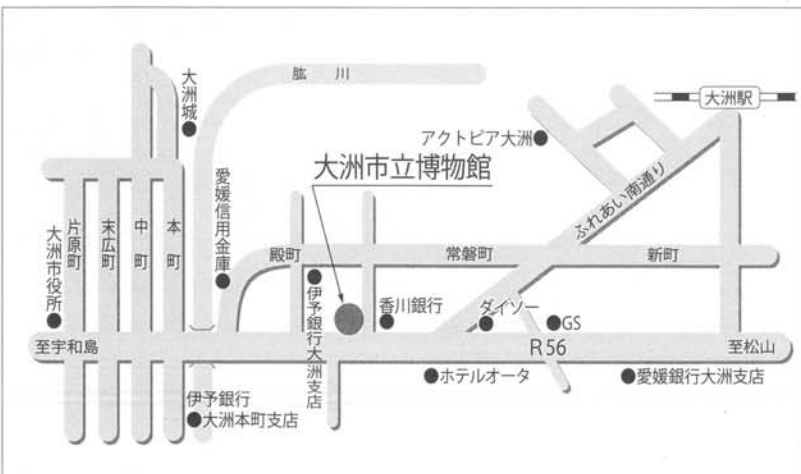
県展入選者作品展（5階特別展示室）

この二番目の機能は、博物館の目的の中核です。市民の皆様はもとより県内外から来館される皆様に大洲地域の歴史や文化、自然の豊かさなどが伝えられるよう研修を深めてまいります。



県外から小学生の来館（5階自然科学展示室）

三番目は、最も基本的ですが重要な機能です。本館には気温と湿度を一定に保てる集約収蔵庫がありますが、すべての資料を収納する空間はありませんし、安全性を過信することもできません。古い資料の大敵であるカビの除去と発生予防には、こまめな手入れが必要で、根気のある作業ですが、貴重な資料を未来に伝えるために学芸員、事務員と共に取り組んでいます。博物館未体験の方もどうぞお気軽にご来館ください。可能であれば舞台裏もご覧に入れます。



● 入館のご案内 ●

開館時間 午前9時～午後5時
 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)
 12月29日～1月3日

入館料 無料

位置 国道56号線沿い三笠通り「社会教育センター」内
 4階、5階が博物館
 1階は駐車場
 2階、3階は肱北公民館

本年度 展示計画

■4階展示室

〔常設展〕

大洲の歴史と文化

〔特別展〕

大洲ゆかりの文学・文人展

9月17日～12月25日

〔特設展〕

幕末・明治初期の大洲群像

4月16日～6月26日

近世・近代絵画による

大洲動植物園

7月2日～9月11日

表装で楽しむ書画展

1月4日～4月10日

市内遺跡発掘速報展(予定)

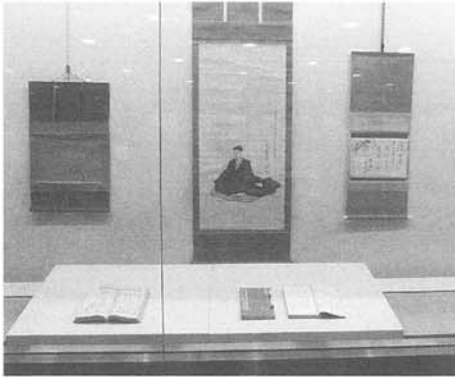
10月中旬～1月中旬

市内で制作された能面展(予定)

1月中旬～2月中旬

臥龍山荘展(予定)

1月中旬～4月上旬



大洲ゆかりの文学・文人展 (4階展示室)

■5階展示室

大洲地方の自然と暮らし(常設) 化石・鉱物・岩石と動物や植物の剥製・標本、民具資料などを展示

■5階特別展示室

県展入選者(大洲市在住) 作品展

4月20日～5月31日

第15回「レンガのある風景」

はがきコンクール作品展

7月17日～8月31日

木を愛する会60周年記念写真展

9月11日～10月2日

藤樹まつり児童生徒書画作品展

10月26日～11月20日

市内児童理科作品展

12月18日～1月15日



木を愛する会60周年記念写真展 (5階特別展示室)

特別展示室の利用案内

5階特別展示室は、絵画、写真、美術工芸品など無料で展示できます。利用ご希望の方は、博物館までご連絡ください。

大洲史談会の活動

大正六年(一九一七)の発足から満百年(中斷期間を含む)を迎えようとしていた本会は、歴代会員の皆様の地道な取り組みにより着実な成果を上げています。この地域の歴史や文化を掘り起こし光を当てた研究の多くは、会誌「温古」にまとめられています。興味をお持ちの方は、ご連絡ください。既刊の会誌も販売しております。



▲ 史談会例会 9月講話



史談会研修旅行 (広島方面) ▶

大洲史談会 本年度の活動

◆ 4月9日(土) 総会 記念講演「甲冑について」

◆ 5月25日(水) 研修旅行「徳川名品展(広島県立美術館)と西条(東広島)酒蔵めぐり」

◆ 6月11日(土) 例会「大洲黎明の禅寺 如法寺」の出版について

◆ 7月9日(土) 例会「太平洋戦争中の学校日誌を読むⅢ」

◆ 9月10日(土) 例会「大洲地方の盃状穴石」

◆ 10月8日(土) 例会「大洲史談会百年を支えた人々」

◆ 11月12日(土) 現地研修「あかがねミュージアム」

◆ 12月 ボランティア清掃

◆ 1月14日(土) 例会「おイネさんについて」

◆ 2月11日(土) 例会「武門大本録」を読む

◆ 3月11日(土) 現地研修「五十崎内子自然観察ウォーキング」

会員募集

大洲史談会に入りませんか。史談会では、広く会員を募集しています。

○ 毎月例会があります。(気軽に参加ください。)

○ 会費は年二千円です。(会誌「温古」をお届けします。)

○ 申込希望の方は大洲市立博物館までご連絡ください。随時受け付けています。

電話 二四一四一〇七

自然の不思議に感動

大洲自然科学教室

- 今年で三十一年目を迎えました。本年度通算二百十三回に達します。
- 毎年五月に小学五・六年生を対象に会員を募集しています。今年度の会員数は五十四名です。
- 大洲市理科同好会（小中学校教員）が中心となって指導していただきます。
- 入会費は不要ですが、入会時に保険料を、講座ごとにバス代や入館料等を集金します。



自然科学教室「夢永海岸の生物観察」

●今年度の活動計画

- ◆6月11日（土）防災センター付近の植物・岩石観察と水生生物調査

- ◆7月2日（土）夢永海岸の生物観察と肱川下流の自然観察

- ◆8月12日（金）13日（土）青少年交流の家宿泊。夏の星座と惑星と流星の観察

- ◆9月10日（土）石鎚山系（岩黒山）の自然観察

- ◆10月29日（土）しらす漁体験とチリメンモンスタースタイル

- ◆11月19日（土）白滝地域の自然観察
- ◆1月7日（土）野鳥の観察と白猪の滝周辺の自然観察

わくわく歴史探検

大洲歴史文化教室



歴史文化教室「松山市考古館見学」

- 今年で二十三年目を迎えました。本年度通算百三十七回になります。

- 毎年五月に小学四・五・六年生を対象に会員を募集します。今年度の会員数は五十八名です。

- 指導者は小学校教員を中心とした歴史に詳しい方々です。

- 入会費は不要ですが、入会時に保険料を、講座ごとにバス代や入館料等を集金します。

●今年度の活動計画

- ◆6月25日（土）市内史跡めぐり（赤煉瓦館、臥龍山荘、大洲城）

- ◆7月30日（土）松山の歴史と文化（考古館、松山城、葉佐池古墳）

- ◆8月20日（土）和紙作り

- ◆9月3日（土）新谷の歴史と文化

- ◆10月1日（土）日本一長い佐田岬半島の歴史と文化

- ◆11月5日（土）宇和地方の歴史と文化

知る楽しみ、学ぶ喜び

ふるさと見聞講座

- 一般市民の皆様を対象に、毎年五月に会員を募集します。年度途中での入会も可です。

- バス利用など人数に制限がある講座は、その都度、申込が必要です。（申込先着順に決定します。）

- 受講料は無料です。現地研修や創作活動は、実費を徴収します。

- 現在会員数八十八名です。

●今年度の活動計画

- ◆6月16日（木）仏像の話（講話）

- ◆7月14日（木）江戸期の名講師 自身が語る幼少期について（講話）

- ◆8月4日（木）金山出石寺の歴史（講話）

- ◆10月20日（木）内子町石畳と風の博物館「大野捷吉とその時代展」（現地学習・見学）

- ◆11月17日（木）美作の小京都「津山」を訪ねる（岡山方面研修旅行）

- ◆12月（予定）クリスマス&お正月の花飾り（創作活動）

- ◆1月（予定）バードウォッチング（野鳥観察）



見聞講座「江戸期の名講師」

【博物館資料紹介】

智徳齋 著述

「秘事百撰」

(前川文栄堂蔵梓)

46丁の木版刷の和本で、縦18センチ×横13センチ。

著者は福井智徳齋。文政10(1827)



年に『施本秘事百撰』を出版しています。当館にあるものは、嘉永元(1848)年に、大坂の書店である河内屋・伊丹屋によって再版されたものです。

目録(目次)を見ると、「(一)棒よせの法」「(二)板のうへに雛卵を立る法」などあります。以下、全部で百項目の手法や料理法、呪いや生活の知恵などが書き連ねられています。当時流行した、今風に言うところのハウツー本というところになるでしょうか。

著者による序文では、「この本のおりに行くと、出来ないような事も簡単に出来てしまい、日々徳益が广大だとあります。たとえば、時期はずれの果物を捨てることも、座敷を大海のようにしたり、地震を揺らせたり、雷を鳴らせたり、花を自由に咲かせたりできて、周りを驚かせたりできるということです。あるいは、様々な病を呪いによりたちまちに治すことだってできる、とも言っています。地震・雷のようなもの(を)起こされるなど、いかにも迷惑なものもありますが、手品の一種であり、江戸の様子を知る上では面白い内容だと思います。このテキストは、古文書

講座でも活用しました。古文書の学習にとつて、版本はきちんとしたくすじ字で記述されていますし、漢字には振り仮名が付されているものもあります。かつ、ひらがなが多数使われている読み本は、最適の教材なのです。一冊をじっくりと読めば、くせ字であったり、メモ書きのように書かれたもの以外であれば、古文書解説が出来るようになっていくはず。ぜひ、チャレンジしていただきたいと思えます。秘事百撰の記事をひとだけ紹介しましょう。

①板の上に玉子を立る法

図のごとくたまごのしりに塩を少しばかり付けてたつるに立事きめうなり(図のごとく、玉子の尻に塩を少しばかり付けて立つるに、立つ事、奇妙なり) この方法、こども向けの手品本などで、目にした方も多いのではないでしょう。なんと、江戸時代に既に行われていたものだったのです。

